

ローズグラス新品種「アサツユ」の特性

澤井 晃<sup>1)</sup>・白山竜次<sup>2)</sup>・南 公宗<sup>3)</sup>・小松敏憲<sup>1)</sup>・鶴見義朗<sup>2)</sup>・  
山方 誠<sup>3)</sup>・土井 修<sup>4)</sup>・長谷 健<sup>4)</sup>・上野敬一郎<sup>5)</sup>  
(鹿児島県農業試験場大隅支場<sup>1)</sup>・草地試験場<sup>2)</sup>・北海道農業試験場<sup>3)</sup>・高山農業改良  
普及センター<sup>4)</sup>・鹿児島県農業試験場<sup>5)</sup>・鹿児島県バイオテクノロジー研究所)

Akira SAWAI, Ryuji HAKUZAN, Tomohiro MINAMI,  
Toshinori KOMATSU, Yoshirou TSURUMI, Makoto YAMAKATA,  
Osamu DOI, Takeshi NAGATANI, and Keiichirou UENO :  
Field Performance of Rhodesgrass 'Asatsuyu'

ローズグラスは国内で最も広く栽培されている暖地型牧草で、おもに乾草として利用されている。ローズグラスの原産地は気温の高い地域であるために、一年生夏作物として栽培する場合には、西南暖地の春の気温では生育が劣る。特に南西諸島において多年利用する場合に、秋から春にかけての低温期の良好な生育が求められている。

そこで、低温期の生育が優れた多収品種を目標として、1995年に新品種「アサツユ」を育成したので、その特性を報告する。

1. 来歴および育成経過

1986年に鹿児島県農業試験場大隅支場(農林水産省牧草育種指定試験地)において、南アフリカからの導入品種「フォーズカタンボラ」と「ガンソン」から、交配後代が低温期の生育に優れ多収を示す7栄養系を選抜した。「アサツユ」はこの7栄養系を親とする合成品種である。

1991年から3年間「大隅6号」の系統名で地域適応性を検定し、1995年9月に「農林合2号」として登録され、「アサツユ」と命名された。

2. 特性の概要

一年生夏作物としての利用における生育期間の平均気温と「カタンボラ」に対する「アサツユ」の増収率の関係を第1図に示す。生育期間の気温が低いほど「カタンボラ」に対する増収率が高かった。沖縄における多年利

用についても同様の傾向があった。したがって「アサツユ」は低温期の生育に優れた品種である。

「アサツユ」の地域適応性を沖縄県から神奈川県に至る9場所で検定した結果、3年間越冬利用した沖縄県では「カタンボラ」より年間合計で24%の多収であり、九州本土以北ではすべての地域で「カタンボラ」より収量が多く、平均すると「カタンボラ」より年間合計で8%の多収であった。このように「アサツユ」は広域適応性を備え、特に暖地適応性が高い品種である。

「カタンボラ」は全体の草姿がほふく型であるが、「アサツユ」はほふく茎の数がやや少なく、立ち型の草姿である。

「アサツユ」の粗タンパク質含量と乾物分解率は、5回の刈取期を平均するとほぼ「カタンボラ」並みである。

3. 適地および栽培上の注意

九州本土の飼料畑、転換畑および南九州の早期水田跡地、並びに南西諸島の草地に適する。「アサツユ」は初期の生育が良いので、倒伏しないよう70cmの草丈に達したら刈り取ることが必要である。

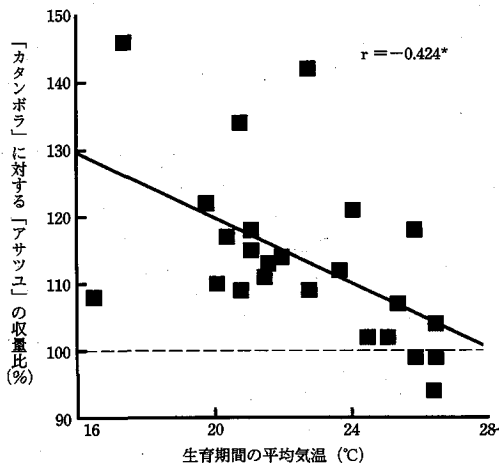
4. 種子の供給について

「アサツユ」の種子が市販されるのは、1998年以後となる見込みであるが、試作用の少量の種子については、1996年以後育成地から入手可能である。

第1表 「アサツユ」の特性

形質	アサツユ	ハツナツ	カタンボラ	
乾物収量 (一年利用)	1番草	117	106	100 (30.5kg/a)
	盛夏期	106	98	100 (67.9kg/a)
	最終刈	116	103	100 (32.4kg/a)
	年間合計	108	100	100 (130.8kg/a)
乾物収量 (多年利用)	低温期 <sup>a)</sup>	146	118	100 (37.1kg/a)
	高温期 <sup>b)</sup>	120	103	100 (170.3kg/a)
	年間合計	124	105	100 (207.4kg/a)
出穂始 (鹿児島)	8月9日	8月10日	8月24日	
初期草勢	良	良	中	
草型	中間	中間	ほふく	
乾物率	16.8%	16.7%	16.9%	
粗タンパク質	16.1%	16.6%	16.6%	
乾物分解率	39.2%	39.0%	38.6%	

注) ( ) 内はカタンボラの実収量、<sup>a)</sup> 平均気温26℃以上 (4~10月)  
<sup>b)</sup> 平均気温19℃未満 (11~3月)



第1図 生育期間の平均気温と、「アサツユ」の「カタンボラ」に対する増収率の関係

注) 西南暖地8県の一年利用における刈取期別(1番草、盛夏の刈取時、最終刈)の3か年平均